日立市立金沢小学校

Ⅰ　実践

1　研究主題

差別や偏見をなくし，思いやりと助け合いの心を育てる人権教育の在り方

ー教育活動全体を通してー

2　主題設定の理由

学校における人権教育は，各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等，教育活動全体を通して，差別や偏見をなくし，人権についての知的理解を深めると共に，豊かな人権感覚や人権意識を育てる役割を担っている。それには，日常生活の中の差別や偏見に気づくことのできる心情や判断力，及び差別や偏見を生活の中からなくそうとする態度を養うことが大切である。

本校の児童は，明るく素直であり，思いやりのある言動も見られるが，一部の児童に相手の気持ちを考えない言動が原因でトラブルが生じる場面も多く見られる。また，価値観の多様化に伴い，家庭における道徳性（特に基本的生活習慣の形成）にも差がみられる。そこで，学校教育活動全体を通して，様々な学習や体験から相手の立場を思いやれる心や助け合う心を育てていきたいと考え,本主題を設定した。

3　実践内容

（1）人権ビデオ教材の視聴

・各学年の発達段階に応じたビデオ教材を活用し，学年や学級で話し合う。

1学年・・・とべないホタル	2学年・・・金色のクジラ
3学年・・・みんなで跳んだ	4学年・・・二匹の猫と元気な家族
5学年・・・しらんぷり	6学年・・・プレゼント

（2）異学年との交流活動

ァ　生活科「おしえてあげるよ」

1・2年生の生活科。2年生に進級した喜びを味わうとともに，新1年生を温かく迎えることができるようにすることをねらいとしている。2年生が1年生にあさがおの種をプレゼントしたり，グループごとに「だるまさんがころんだ」「色おに」「かごめ」などで遊ぶなかで，めんどうを見ながら楽しく活動する姿が見られた。

ィ　わんぱく集会（縦割り集団活動）

1～6年生の縦割り集団を「わんぱくグループ」として年度初めに編成し，年間計画に沿って月に1度活動する。異学年の友だちを思いやる心や態度の育成をめざしている。

（3）やさしさいっぱい週間

学級や学校の一員としての自覚をもち，みんなのためになることを進んでしようとする意欲を育てることをねらいとしている。

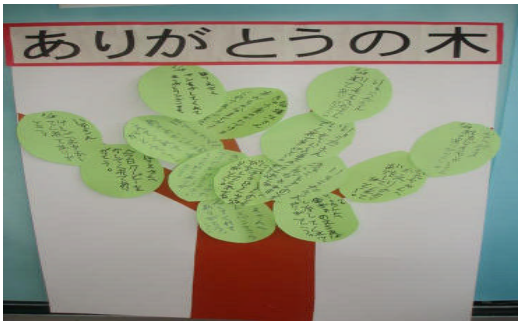
友だちと仲良くできたか，優しく親切にできたか，友だちにしてもらってうれしかったことなどを記録用紙に書き，自分の行動を振り返らせている。

（4）環境面から

ァ　こころコーナー（人権コーナー）の設置

全児童が目に触れる機会の多い体育館への通路に「こころコーナー」を設置した。学年で取り組んだ人権メッセージを掲示して，人権への啓発の場としている。

ィ　やさしさの木・ありがとうの木



毎日の生活の中で，友だちに助けられたこと，親切にされたことなどをカードに書き「やさしさの木」「ありがとうの木」に貼り積み重ねていく。友だちの良さに気づいたり，感謝の心を表したりする機会としている。

（５）自警団との交流会

各クラスで感謝の気持ちを伝える発表をしたり，会食をしたりして，毎日お世話になっている自警団の方々に感謝の気持ちを表している。

４　成果

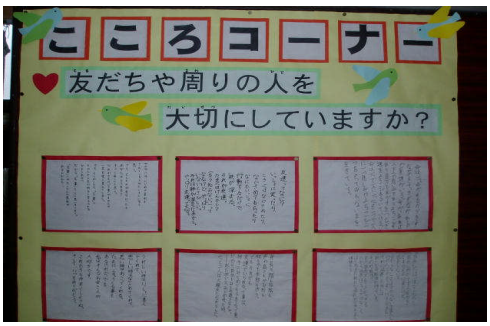
生活科「おしえてあげるよ」では，２年生になったとはいえ，まだお兄さんお姉さんになった実感がわかない子どもも見られた。そのため，１年生との交流など人とのかかわりを大切にする活動を設定することにより，上級生としての自覚が芽生え自分から遊びにさそったり，困っている子を見て進んで声をかけたり，１年生の靴箱を自主的に掃除をしたりと下級生にやさしい気持ちがもてるようになってきている。

月に１度の縦割り集団活動では,活動の計画を立てる際に低学年を考慮して考え,異学年が一緒に楽しく遊んだり，作ったりすることができた。上級生は下級生の面倒を見て教え，下級生は上級生に親しみをもって接することができた。この活動をきっかけに上級生が下級生と一緒に遊んだり，教え合ったりする姿も見られた。

このような学習や体験を通して，どの学年も思いやりや助け合う心が少しずつ育っていることが，人権アンケートからわかる。相手を思いやり，助け合おうとする心が育ってきている。

Ⅱ　今後の課題

・人権について考える場や体験活動を設け，自己や他者を大切にする人権意識や人権感覚を育てているが，さらに教育活動全体を通して，日常生活の中でも実践力のある児童の育成を図っていきたい。

・職員研修や家庭・地域への啓発を充実させ，学校・家庭・地域が連携し，人権教育に取り組めるように努めたい。

Ⅲ　人権コーナー設置の様子